

第8回定期大会に結集しよう



83.10.3

No. 1457

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆(〇四七二)七二〇七

「三里塚」国鉄決戦の勝利をかちとろう

動労千葉は、十月五・六日、第八回定期大会を開催します。未曾有の国鉄労働運動解体攻撃が吹き荒れる今日、われわれは今定期大会において動労千葉の路線的支柱である「反合・三里塚」を基軸に闘う労働運動「路線をさらに強固にうち固め、一三〇〇名一丸となつて反撃にうつてでようではありませんか。

厳しい情勢だからこそ
労働組合の原則を守つて闘おう

国鉄当局は政府・自民党、臨調の「国鉄」攻撃に便乗し、「今がチャンス」とばかりに既得権、労働条件を奪いとり、職場支配権を奪回する攻撃を強めています。これまでの労使関係をすべて破壊し、ワッペン闘争への介入はおろかついに名札の着用さえ強制しようとしています。

一歩さがれば十歩追いつちをかけてくるという状況の中で、問われている事は歯を食いしばってふんばり、労働組合の原則をつらぬきとおすというこでなければなりません。

ひとたび原則を踏みはずせば、あとはざるざる後退するだけであることは動労「本部」革マルの姿を見れば明らかです。

当局のふところに飛びこみ、動労千葉、国労を叩くことで生きのびる戦略を選んだのが他ならぬ動労「本部」革マルです。

動労「本部」革マルは、「冬の時代」「情勢が厳しい」ことを異常に強調し、だから「今は闘うべきではない」「闘う者は挑発者だ」と絶叫し、「職場と仕事を守るため働き度を高めよう」と次々と権利を売り渡しているのです。そして、合理化や入浴規制など当局の限なき攻撃に、これ以上はゆずれないと決起した国鉄労働者を「挑発者」呼ばわりし、大量不当処分をうけつつも必死で反撃に起つ国労への組織介入を行っているのです。

「反合・三里塚を基軸に闘う労働運動」こそ勝利の道

何度もいうように、動労「本部」革マルは正銘、当局の尖兵であり、一掃する以外に労働運動の未来はありません。

われわれは、動労「本部」革マルの反労働者性を見抜いたからこそ十数年来にわたって警鐘を乱打してきたし、血を流してまで分離独立をやりぬいてきたのです。今日の動労「本部」革マルの姿を見た時、動労千葉の正しさを百パーセント確認することが出来ます。

日帝・国鉄当局、さらには労働組合を名のつて襲いかかる動労「本部」革マルの攻撃の中で、いまや国鉄労働者の怒りは沸騰点に達しています。これを爆発させる火点はどこにあるのでしょうか。

日帝・中曽根の軍事大国化・改憲攻撃の焦点である「国鉄」「三里塚」で闘い、この闘いに勝利することです。

とりわけ三里塚は反対同盟を先頭に、日本のあらゆる潮流が結集し、十八年間の闘いを貫く中で敵の全体重をかけた軍事空港建設を阻止しています。三里塚はまさしく反戦・全国住民闘争の砦であり、労働者人民がここで勝利するならば、中曽根の反動をうち破り、今日の階級情勢を大きく逆転させることが出来るのです。

動労千葉は労農連帯を掲げ、「反合・三里塚」を基軸に闘う労働運動「路線のもと、81・3ジェットストライキを貫徹し、「国鉄」と「三里塚」で勝利できる展望を大きく切りひらいてきました。この路線のもとにすべての労働者を結集させ、「三里塚」「国鉄」決戦の勝利をかちとろうではありませんか。

「反合・三里塚闘争」路線の真価は秋の闘い一切が問われています。第八回定期大会を大成功させ、10・9三里塚現地集会への大結集を突破口に、59・2ダイ「改」「職場規律の確立」等をうち破つていこうではありませんか。

圧倒的取場討議と傍聴を

第8回定期大会
 とき. 10月5日. 10時
 6日. 17時
 とこ. 千葉グランドホテル

会場